

函館古地図マップ

明治の函館を巡る

函館市公式観光情報サイトで
はこぶらで詳しい情報が
ご覧いただけます。

はこぶら 古地図マップ

検索

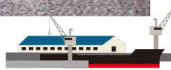


願乗寺川の周辺 **48** ~ **56**
願乗寺の僧、堀川乗経が開削した人工水路は水の不足していた当時の市街地の発展に大きな貢献があった。明治29年の水道開設に伴い、水路は埋め立てられ、現在の高砂通りとなった。

理立地の倉庫群 **40** ~ **47**
開港後の物資の流通などを目的に造成された築島(理立地)周辺には倉庫や造船所が建ち並び、堀割には多くの小型船舶が往来した。明治20年以降それらの堀割は順次埋め立てられて銀座通りなどの道路となり、現在のベイエリアの母体が出来上がった。



1 砲台(弁天砲台)



辨天町(弁天町) 明治15年頃 d
 港湾防備のため五稜郭と同時期に着工。工期7年を要し、元治元年竣工。15門の大砲を備え、箱館戦争時には旧幕府脱走軍が布陣。明治29年取り壊され、現在は**函館どつく**⑦。

4 船改所



仲濱町(大町) 明治8年以降 b
 江戸時代は沖の口番所といい、入港する船の積み荷・旅人の検査と徴税を行った。明治8年から船改所と称した。同18年からは水上警察署が同居、同20年廃止。現在は**臨海研究所**④。

5 造船所(辻造船所)



仲濱町(大町) 明治10年頃 b
 仲濱町の海面約1800坪を埋め立て、明治11年2月に竣工。創業者の辻松之丞は幕末期に西洋帆船の建造経験があった。現在はおくま冷蔵倉庫が建つ。

7 税関



仲濱町(大町) 明治16年 a
 安政6年関税徴収を目的に設置された運上所(弁天町)に始まる。明治6年に函館税関と改称。同44年にルネサンス様式に建て替えられた。昭和43年に取り壊され、現在は**海上自衛隊函館基地隊**③に。

8 棧橋(東浜棧橋)



東濱町(末広町) 明治初期 b
 明治4年開拓使が設置。若松町に鉄道連絡船の棧橋ができる同41年までは、港内に停泊した船舶からはしけに乗換えた旅客が上陸する棧橋。現在は**旧棧橋**②として整備され、港内の夜景を楽しむスポットに。

9 臺町貸座敷



臺町(船見町) 明治15年頃 d
 明治6年に開拓使は貸座敷業の営業地として豊川町・台町・蓬莱町の3か所を指定し、公娼制度が存続した。座敷数20軒ほどが営業。

21 百十三銀行



末廣町(末広町) 明治14~15年頃 b
 明治12年八幡坂下で営業を開始。同40年大火後に東浜町に移転、さらに大正11年函館銀行と合併し、本店を筋向かいに新築移転。その建物が現在は**SEC電算センタービル**⑦。

25 第二公立病院(函館病院)



天神町(弥生町) 明治15年 a
 文久元年設立の箱館医学所が当初の姿見坂上から船見町へと移り、明治12年大火後、基坂に新築移転。その後も大火で何度か焼失・再建を繰り返す。平成12年、港町に新病院を建設・移転。現在は**観光バス駐車場**⑦。

26 天神学校(弥生学校)



天神町(弥生町) 明治15年 a
 明治11・12年の大火で焼失した3校(松蔭・常盤・内淵)の統合校として同15年新築。隣接の坂名を冠し弥生学校とした。昭和9年大火後の鉄筋コンクリート建築の校舎は平成24年に建て替え、現在は**弥生小学校**⑦。

28 函館県庁



元町(元町) 明治15年 a
 旧箱館奉行所跡地に明治13年開拓使函館区役所、15年函館県庁が置かれる。当時北海道は3県制(函館・札幌・根室)。同42年ギリシャ建築風外観の函館支庁舎新築。現在は観光案内所、**写真歴史館**①。

30 イギリス領事館



元町(元町) 明治16年 a
 安政6年開設、明治16年に現在の場所に移転・竣工したが、同40年大火で焼失、現在の**旧イギリス領事館**②は大正2年築。昭和9年に領事館閉鎖後、函館病院の寮を経て平成4年開港記念館として公開。

33 ヤソ堂(天主公会)



元町(元町) 明治15年頃 b
 慶応3年、現在地に仮聖堂を設け、明治10年に最初の聖堂を建立。明治40年、大正10年の大火後、同13年に再建し現在の**カトリック元町教会**⑦となる。聖堂内の祭壇はローマ法王から贈られた。

38 招魂社



汐見町(元町) 明治15年 a
 明治2年、戊辰戦争の官軍戦死者を祀るために造営。その後、日清・日露・太平洋戦争の戦死者を合祀。昭和14年**護国神社**④に改称。境内に新政府軍兵士の墓所がある。

39 公園地(函館公園)



青柳町(青柳町) 明治15年頃 b
 道内最初の洋式公園。英国領事コーステンの呼びかけに市内財界人が呼応。明治11年着工、翌12年開園し、**函館公園**⑤として現存。園内の博物館(1号)は同12年開館で現存する建物としては我が国最古。

40 三菱倉庫



船場町(豊川町) 明治15年 a
 明治15年三菱汽船が煉瓦積みの倉庫と事務所を建設。同40年に増改築、長く日本郵船の倉庫。昭和63年**BAVはこだて**④としてショッピングモールに。建築当時の煉瓦積みの壁が現在も残る。

41 常備倉



豊川町(豊川町) 明治8年頃 b
 開拓使の非常用備蓄倉庫として明治8年完工。茂辺地製造の煉瓦を使用。同23年の払下げ以降は安田倉庫。平成19年、倉庫を解体しホテル**ラビスタ函館ベイ**②となった。1Fの一角には記念ギャラリーがある。

43 外国造船所(トムソン造船所)



豊川町(豊川町) 明治10年代 b
 慶応元年英国領事館の元警備官トムソンが現在の豊川町に造船所を設置。明治8年以降、開拓使が洋式船の建造を奨励、造船業は一大活況を呈していた。建造実績は当時函館随一。

46 栄国橋



地蔵町(末広町) 明治10年頃 b
 享和元年箱館奉行が当時の地蔵町で築島と堀割を造成、荷揚げと作事場とした。その堀割に架けられた橋のひとつ。堀割はその後旧高田屋敷まで延長、明治21年に埋め立てられ現在の銀座通りができる。

4 ハリストス正教会

35 遺愛女学校

坂上に異国風エリア(30~39)
 開港後の函館(箱館)に住んだ外国領事や商人たちは幕府が提供した港近くの居留地を好まず、函館山中腹の眺望の好い場所に居住した。領事館・外国教会・学校もこれにならって、現在の元町の高台の一角にそれらが集まることになり、独特の雰囲気のある町並みが形成されていた。

30 イギリス領事館

28 函館県庁

29 開拓使書籍庫

32 師範学校

30 イギリス領事館

27 金庫

25 第二公立病院(函館病院)

26 天神学校(弥生学校)

23 新聞社(北溟社)

24 警察署

18 郵便局

17 電信局

16 四十四銀行

19 三井銀行

6 外国人(大町外国人居留地)

7 税関

5 造船所(辻造船所)

4 船改所

31 愛宕社

13 墓地

12 高龍寺

15 実行寺

11 地藏堂

10 清光院

14 称名寺

9 臺町貸座敷

台町の表情(9~15)
 明治11・12年の大火により当時の市街地の大半が焼失した。開拓使は復興にあたり、寺社や学校などを坂上に移転させ、跡地を商工業・住宅地として再編成した。

- 十字街 市電電停
- 函館バスの主なバス停
- 元町・ベイエリア周遊号の主なバス停
- P 観光駐車場

現在の岸壁

函館市電路線

1 砲台(弁天砲台)

3 造船所(島野造船所)

開港場の水際(1~3)
 開港後の外国船の手続き(和易)は基坂下に設けられた和船の手続きは船改所。棧橋は連絡船乗客の出入り(元町)から臨海研船改所までの岸壁には当みが残り、快適なプロムナード

洋物店

橋

洋物店

洋物店

洋物店

洋物店

洋物店

洋物店

